

一人の犠牲者も出すな！

防災の取り組み、地域で役所で学校で

「二人の犠牲者も出すな！」。東日本大震災から二年、阪神淡路大震災から十八年。地域で、役所で、学校で、防災の取り組みが重ねられています。官の蓄積を生かし、民の創意を汲み上げながら、「防災は地域一体で」「初期初動体制を素早く」「港区にふさわしい防災計画を」とそれぞれの目的を持って取り組まれた三つの催しを取材しました（6、8頁にも記事）。

積み重ねて十数年、南市岡小で「防災体験学習」

◆盛りだくさんなメニュー

「防災は地域一体で取り組まな」と二月十

九日、南市岡小学校で恒例の「防災体験学習」

が開催されました。十二回目。同校の児童・教

職員や住民組織の人々に、今年は授業参観の保

護者も加わり、計約二百五十人が参加。防災授

業、避難訓練、防災スライド学習、非常食試食

「けむり」体験、レスキュー車両見学など盛

りだくさんなメニューを通じて、地域一体での

防災の重要性を学び、アピールしました。南市岡はぐくみネット・南市岡小学校・同校PTAが主催、同地区の社会福祉協議会・ネットワーク委員会が後援、港区役所・港消防署・港警察署・大阪市港湾局・気象庁が協力しました。



→児童・保護者・地域の人々が一体で取り組んだ「防災体験学習」＝11月29日、南市岡小(写真は町会)のアルファ化米試食

◆防災クイズで知識を確かめ

午後一時すぎからの授業参観では各教室で「防災授業」が行なわれました。このうち五年一組では「災害から身を守る」地震・津波に備えて」と題し、四グループに分かれて学んだことを発表し合ったり、クイズ形式で知識を確かめ合ったりしていました。クイズでは「これは何のマーク?」「災害時に停電してテレビが見られなくなった時は?」①外へ出て確かめる②携帯電話で情報を見る③すぐ避難する(正解は②)などの問題が出され、参観の母親が真剣な表情で討論に参加する光景も見られました。

最後に各自が感想を書いて黒板に貼り付けましたが、それらには「もし地しんがおきたらできるだけ高い所へにげるとめうことがわかった」「地震の時に用意する物など色々わかった」「まず身を守るというともわかった」などと記述していました。

◆「地震発生」で机の下へ

授業が終わる頃にサイレンが鳴り、「地震が発生しました」との放送で、児童らは素早く机の下へ。先生が「机の脚を持って」などとアドバ

←授業参観で防災について発表する5年生児童

⑤「地震発生」で机の下に隠れる児童⑤



イスしていました。やがて「揺れが収まりました」との放送で、参観の保護者も一緒に、先生に引率されて講堂へ。講堂では校長が「これだけ大勢が三分二十秒で集まりました。よかったです」と児童たちの迅速な行動を評価、「訓練でできないことは本番でもできません。今日の勉強と訓練を忘れないように」と呼びかけました。

◆地域の人たちと車座に

講堂では九枚のシートそれぞれに各町会の児童・保護者・地域の人たちが集合して車座に。主催の南市岡はぐくみネット・志幸万里子「ディネーターが司会を担当。挨拶に立った地域振興会南市岡町会連合会の長岡富雄会長が「災

害は忘れた頃にやって来る。いざという時のためにしっかりと訓練を」と呼びかけました。

「このあと児童代表が「災害が発生したら学校は避難場所になるので、学校にある物を紹介します」と毛布・水缶・タオル・歯ブラシなどを示しながら「毛布は真空パックになっている二百五十枚あります」「水缶は全部で千八百個あります」と説明し、「僕たちも力を合わせて役に立ちたい」と結びました。

「この発表について司会者は「去年までは地域の方が担当したが、今年は児童が発表した」とと学校の取り組みの前進を讃えました。

さらに地域防災を担う社会福祉協議会や地域振興会、女性会、防災リーダー、ネットワーク委員などが紹介され、田端尚伸港区長が「地域あげて地域を守る」とする取り組みは素晴らしい。区役所も力を合わせる」と激励しました。

◆防災スライドを学ぶ

「このあと港濱局の担当者が防災スライドを上映。①地震の種類と仕組み②津波の恐ろしさ③港区や南市岡の地形と防災施設の現状④災害発生時に大切なこと」などを説明し、特に④では

「アルファ化米の五百飯を準備する女性達」と

「けむり体験ハウス」で煙害を体験する児童④



「頭を守る」「正しい情報を得る」「三階以上へ逃げる」「警報解除まで避難を続ける」の四点を強調しました。

また区役所の担当者は「防災に関する区役所の仕事」について講話。①水缶・毛布・アルファ化米・トイレ・日用品など学校よりも色々なものをたくさん備蓄している②地域と一緒に避難訓練などをする③パンフやマップなどの防災情報を普及するなどを区役所の役割として挙げた上で、耐震措置を施していない家屋で地震が発生した時の映像（本箱などが倒れて人形が下敷きになるなど）を上映、「家具などの補強を家族と話し合おう」と呼びかけました。

◆アルファ化米を試食

このあと女性会やネットワーク委員の手で炊き上がった備蓄食「アルファ化米」による五百飯の試食が行なわれました。この中では、各町会に属する児童がそれぞれの人数分を受け取り配ることを通じて、地域の人たちと交流できるよう配慮されていたのが印象的でした。

談笑しながら食べていたある児童と保護者は「とてもおいしいです」「家で作る五百飯と比べても見劣りしません」と満足そうでした。また炊事を担当した女性は「お湯で四十分、水なら一時間以上かかりますが、今日はお湯で二人分を用意しました」と話していました。

◆AEDや手信言の実演も

このあと低学年は校庭で防災体験、高学年は消防署・警察署の話聞きました。

このうち港消防署の担当者はAEDの使い方を実演。「心臓は止まる寸前に痙攣するが、それを正常に戻すのがこの機械」「この機械は心臓が痙攣している時しか反応しない」「倒れている人がいたら、まず意識があるかないかを確認する」「意識がなければ119番とAEDの手配を

周囲の人に頼む「AEDが到着したら機械の言う通り使えば良い」などとアドバイスしました。

また港警察署の担当者には「災害時に必要なのは、自分のことは自分でという心構えと、助け合いの精神。日頃から近所の人と仲良く」「防災について家庭でも話し合いを」と呼びかけ、災害時に通信が止まった時の手信号での交通整理を実演して見せました。

◆「煙ハウス」など体験

このあと高学年は校庭に移り、防災体験に参加しました。この中で港消防署は火災時に暗闇で煙にまかれる状態を体験できる「けむり体験ハウス」を設置。児童らは「姿勢を低く」「口を塞いで」「などアドバイスされながら、長さが去年の二倍になって、よりリアルな体験ができるようになったトンネルを潜り抜け、「ああ怖かった」などと「恐怖」を口にしていました。

また署員はレスキュー車に搭載されているカッター（油圧で金属板などを切る）、スプレッター（ドブなどをこし開ける）、ストライカー（ロック塀などを破壊する）、防火服（炎の中でも火傷しにくい）、空気呼吸器（息ができない空

←エアジャッキの力を実感させてもらう児童と、高圧放水機の説明をする港警察署員



間でも二十分ほど動けるように二百リットルの空気を送る、エアジャッキ（空気で二十〜三十トンの重量を持ち上げる）、レスキューロール（倒れたら警報音が鳴る）などの「レスキューツール」について説明。このうちエアジャッキには十人ほどの児童を台に載せて持ちあげ、どれほど力があるかを実感させていました。

また港警察署はボーカーメ（高所や隙間など人の目が届かない所へ入り込めるカメラ）、投光器（暗い所を照らす）、高圧放水機（高圧の水を発射して局部火災を一瞬で消火できる銃）などの使用法を実演。このうち「自動車ボディが凹むくらい力がある」といって高圧放水機から水

が発射されると、その衝撃の凄さに児童らは息を呑んでいました。

◆「防災は積み重ね」と関係者

終了後、はぐくみネットの志幸さんや同校教諭、ヘルメット姿で参加した坂元健一・西町会会長（六九）、松井信樹・北町会会長（六八）ら地域関係者は次のように感想を語ってくれました。

「期限切れのアルファ米をどう生かすか」というところから始まった取り組みですが、関係官公署の協力で年々内容が充実してきました」

「去年までは高学年と地域の人たちだけでしたが、今年は下級生と保護者も加わったことで、家庭で防災を話し合っつけかけを作れただけでなく、地域挙げての取り組みになりました」

「防災は積み重ね。災害時に自分がどの町会のお世話になるか、頭と共に顔で知っていることが大事。こういう経験は必ず役立つでしょう」

一方、ある防災リーダーは「私は水防団員も兼ねており、いざという時、役割がダブってしまつので、誰か新しい人に替わってもらおうかと考えています」と話し、担い手が偏りがちな地域防災の今後の課題を示唆していました。

あ さ や け

仕事場のストーブにかけた湯が沸騰しかけた頃、妻が入って来て別の薬缶と替えて行きま
す。「そんなことしたらいつまで経ってもお湯が
乾いたままや。何のためにかけてるか、分かつ
てんのか」とホヤいても、光熱費節約に目が眩
んだ我が家の財務省には通用しません。とはい
え、これなら可愛い方で、もしこの本末転倒が
地球規模でやられたら…▼ところが今の世の中
全うこれですわ。もともと人の幸せのために生
み出された道具が、悉く金儲けの手立てにな
り、競争が煽られ、結果、九十九が不幸に。
自動車、携帯電話、果ては教育やスポーツまで。
それこそ「そんなことしたらいつまで経っても
社会の空気が殺伐したままやないか」と抗議
しても、金銭欲、権力欲に囚われた資本家や政
治家には通用しないのです▼ならば「せめてこ
の部屋だけでも潤いを」と願っています
…ああ、まだ薬缶替えていきよった。

× × × × × × ×

厳寒の候、深夜の十間での冷水摩擦にはけつ
こつ気合が要ります。何を隠そう、全ては生活
防衛のため。家風呂がない筆者宅。銭湯へは毎
日でも通いたいのですが、貧すれば鈍する、ど
うしてもセ「いきえに陥ってしまうのです、
トホ▼とはいえ、怪我の功名という奴でしょ
う、この習慣が節約と清潔はもちろん、健康に
もプラスになっているとは、曲がりなりにも
十数年、地域新聞を続けてこれたことが証明し
ています▼それはさうおき、辛いけどもそれ
が自分を鍛える「愛の鞭」と分かれれば耐えら
れますが、そんな自覚なしに、他から、他の都合
で押し付けられたのでは、逆に自分を潰す凶器
でしかありません▼「体罰」が世を騒がせてい
ます。根は苛烈な弱肉強食社会。勝ち残りへの
圧力が「指導」といつ名の暴力を蔓延らせるの
でしょう。加えた側も加えられた側も被害者。
「魔女狩り」でなく根本を正すしかありません
▼筆者の冷水摩擦が貧困という根本を解決しな
ければやめられないように…なんじゃそれ。

× × × × × × ×

「これから何をめざして生きたいのか」と問わ

れ、しばし考えに沈むイチロー。絞り出すよう
に出た言葉は「野球人生において死ぬ時は笑
って死にたい」でした▼昨年十一月放映のNH
K『イチロー特集』。意外だったのは答えそのもの
よりも、常に深く考えながら野球人生を送る
イチローでさえ「何のために生きるのか」という根
本的な思考をそれまで充分していなかった、と
いうことでした。過酷な競争社会で、心の腰
を据えて生きるこの難しさを思い知らされた
場面でした▼同時に感じたのは、そんな問答を
通じてイチローや視聴者に根本的な思考を促
そうとした聴き手の姿勢の高さ。そしてそれに
思ったのは、インタビューに限らずあらゆる人
間関係は、単なる物や言葉のやりとりでなく、
互いの高め合っていくとありたい、とついにい
す▼で、まずは家庭から…と思いましたが、女
房とは高め合っていくよりも、叩かれつつ放し
「の」トラウマから、これはちょっと横へ置いて、
まずはこの港新聞を、単なる情報受け渡しの際
体ではなく、読み手も書き手も取材相手も、共
に高まり深まり合える場になりたいと願っていま
す。これは真面目な話でっせ、ホンバ。

初期初動体制 素早く

緊迫感溢れた「震災総合訓練」



「災害時に素早く初期初動体制を――」。阪神淡路大震災から十八年目の一月十七日朝、港区役所を拠点に「港区震災総合訓練」が行なわれました。港区役所職員、港区に住む市職員、港消防署・水上消防署・港警察署など区内の関係官公庁職員、合わせて約七十人が参加。「大阪市震災総合訓練」の一環として実施され、他区でも同様の訓練が同時時間帯に行なわれました。

◆M9地震発生、30分で集合

訓練では「午前九時に南海トラフを震源とするM9の地震が発生し、津波警報も同時に発令され、一時間後に八咫の津波が大阪港に到達予定、港区は震度6弱、公共交通機関は全て停止し、復旧の見込みは立っていない」との想定のもと、直近参集職員（港区に住み、他の区役所等に勤務）一千八百人中十五人が自宅から徒歩で区役所五階の「対策本部」に到着し、港区役所職員らと合流。九時半、対策本部の会議が始まり、①庶務班②調査班③救助・保健福祉班④避難収容班―などに分かれ、行動を始めました。

◆避難のむかひに公園へ

このうち避難収容班は二人一組で各収容避難

←次々と被害状況などを書き入れる職員と防災情報システムで各地と交信する職員



所（小学校）へ行き、本部との無線訓練を行ないました。また救助・保健福祉班では一人ずつが区内の公園へ徒歩で向かいました。南市西公園を指示された男性職員一人は途中の目印などを確認し合いながら約十五分で到着。メガホンで付近住民に「南市岡小学校へ避難して下さい」と呼びかけ。帰りは往きと違うコースを辿って帰庁。責任者に状況報告をしました。

◆「家屋倒壊」「JR・地下鉄不通」

こうして各班が得た情報は、壁に張られた各種の表に次々と書き込まれていきました。「被害状況」の表には「十時一分、波除四・三・二で倒壊家屋の下敷きあり、救助依頼あり」など。

→緊迫感溢れた港区震災総合訓練―1月17日朝（写真）は各班に報告を求める対策本部

「ラインライン処置」の表には「九時三十一分、緊急点検のため停電中」など。「避難所開設状況」の表には「九時四十七分、市岡小に約百名避難」など。また港区の白地図には「JR・地下鉄不通」「安治川水門閉鎖不能」などの文字が赤マジックで各発生場所へ記入されていました。

◆混乱は起きていないか

これらの活動や収集情報を受けて十時半、対策本部の会議が再開されました。この中では各班から報告が行なわれ、本部長である田端区長から「表に書いてあるとはいいから、それ以外の状況を…」(築港小に避難が百名とは少ないな…)「避難所で、混乱は起きていないか?」などの指示や感想や質問が飛び、それらに応じて修正や追加報告が行なわれました。

◆区民と一緒に地域を守ろう!

この後も引き続き「情報収集」などが行なわれた後、十一時に訓練は終了。田端本部長から講評がありました。この中で田端氏は「想定外の指示にも臨機応変に対応でき、良かった」「災害時にはまず自分の命を保つこと、地域の助け合いで二階以上へ逃げてもいい」と、役所はそれを

助けながら情報収集に努めること」という大原則を改めて確認できた」「三方を水に囲まれた地理的な宿命の中、区民と一緒に地域を守り抜き、津波で一人の死者も出さない決意でこれからも訓練を重ねていこう」と呼びかけました。

◆「身が引き締まった」と参加職員

救助・保健福祉班で活動した区内在住の男性職員一人は「十月の直近参集者訓練と比べて訓練内容が一段と本格的になって緊迫感が増し、身が引き締まりました」「公園へ避難指示に行く訓練では住民に『小学校へ避難して下さい』という呼びかけ内容がはつきりしなかったため、今後は明確に指示してもらった方が良いと思います」



→被害状況を報告し合う調査班メンバーと公園で小学校への避難を呼びかける職員

ます「二人で行く時は行き帰りと」「手に分かれた方が、情報収集や呼びかけが広くできると思いました」「救急用品などを収めたジュニフルケースにマスクが入っていなかったため、入れるよう提案しました」などと話していました。

◆「公助の大切さ痛感」と見学者

この訓練には港区区政会議防災部会の委員が十月の直近参集者訓練に続いて見学。野村好孝部会長は「消防や警察なども加わった層の厚い緊迫した訓練を目の当たりにし、自助・共助と共に、改めて、公助の大切さを痛感しました。同時に、災害は時を選びませんから、今後は夜間にも行なうなどの調整を加えて続けていけば、更に充実した備えになっていくと思います」。

同じく二回目の見学だった前川美智子委員は「二回目と比べて格段に緊迫感が増したのが印象的でした。特に職員の方が実際に公園や学校まで歩いて地域を体でつかんでもらったことは良かったと思います。今後は防災リーダーとのタイアップなど各地域と連携したメニューを加えていけば、さらに実践的な訓練になるのではないのでしょうか」と話していました。

計画作りへ詰め

区政会議 防災部会で論議進む



「港区にピッタリの防災計画を作ろう」と港
区政会議（武智虎義委員長 たけみけりつぎ）の防災部会（野
村好孝部会長 のむらこうこう）が一月三十日夜、港区役所で開
かれました。六回目。委員十二人のうち十一人
と区役所・関係官公署の担当者が出席、地域
防災計画の年度内策定に向けて詰めの論議が行
なわれました。

◆「たたき台」を示す

会合ではまず、これまでの同部会での論議や
地域での防災活動を元に港区役所がまとめた
「災害に強いまちをめざして 港区防災計画
（たたき台） 震災対策編」について、担当の
市民協働課・小路課長が説明に立ちました。

この中で同課長は、同計画の構成（総則「港
区の地勢」「災害想定・被害想定」「予防対策」
「応急対策」「復旧対策」「資料」を示した上で、
要所で主に次のような説明を加えました。

◆被害想定の見直し

①山田委員から「樂觀的すぎるのでは」と指
摘があった「南海トラフ地震で港区の死者」名
との被害想定は、府市共同でのさらに詳細な被
害想定で見直される可能性がある。

②耐震補強工事が必要な防潮堤約九・一キロ
のうち三・〇キロは平成二十四年度中に、残り
六・一キロは三十四年度中に完了させる。

③防潮扉閉鎖体制を従来の「臨港四区の港
灣局職員百十二名」から今年度より「市職員一
百八名」へ拡充する。

④「津波避難ビル」は公共二十八カ所、民間
三十五カ所を指定すみだが、平成二十七年度中
までに「昼夜間想定避難人口達成率」を全地域
で二〇％まで拡充していく。

◆各地域にも「地域防災計画」を

⑤平成二十五年度に各地域で発定する「地域
活動協議会」と連携して各地域にも「地域防災
計画」を作り、「自主防災組織」を立ち上げ、そ
の中に「防災リーダー隊長」（仮称）を置く。

⑥マンション居住者と地域住民の相互応援体
制（協働防災訓練の実施など）を平成二十五年
度中に三カ所で確立する。

⑦福祉避難所（ある程度自力で動ける要援護
者に配慮された収容避難所）の指定は現在の二
カ所（ひまわり）から平成二十七年度までに八
カ所を目指す。

→港区にふさわしい防災計画作りへ詰めの論
議を行なった区政会議・第6回防災部会

その上で同課長は「これを叩き合ひ、防災委員の意見や区民のパブリックコメント（公共の意見）も採り入れ、最終プランへは上げていきたい」と決意を表明しました。

「このあと、この「たたき台」について意見が求められ、次のようなやり取りがありました」
↓
のあとは委員からの意見や感想、↓のあとは区役所や関係官庁からの回答や意見で。

◆障害者の受け入れ体制を

↓要援護者対策も入り、（前の叩き台より）良くなったが、「迷惑をかけるとは」なご不安の大きい各種障害者や、増加する一方の外国人が、各地域でも安心して（避難所などに）受け入れてもらえるような内容が入ったら更に良くなる。地域には語学の堪能な人などが沢山いる。（そういう人たちの力を生かすためにも）基本的な方向付けをし、地域で具体化できるようにしてもらえたら↓良い意見だ。そこまで入れると詳細すぎるので入れなかったが、行政の責任として、やはり検討するべき。平成二十五年度のアクションプラン作成時に諸団体などと相談し、注意喚起やマニュアルなどにまとめた

◆防潮堤耐震化の目標明記を

↓段々良くなっている。特に「現状」「課題」「方向性」というまとめ方は分かりやすい。その上で、防潮堤の耐震補強工事を平成二十四年度に完了させようというのは悠長すぎる。「いつまでにどれだけ」という整備目標の明記を求めたい↓港灣局とも相談の上、少なくとも平成二十七年年度までは具体的な目標を作っていきたい

◆避難ビル「三者協定」の利点

↓津波避難ビル指定は三者協定によるが、ビル所有者に不安はないのか↓ビル所有者の一番の心配は避難者が退去する際の後始末だが、その点、三者協定は、ビル所有者と区役所だけでなく町会もはいつているので、組織的に入って組織的に出る、ことが可能だ

◆福祉避難所を拡充

↓福祉避難所は現在「ひまわり」だけだが、どっついつ所へ広げていくのか↓ザイオン、愛港園などの特養ホームや老健施設などだ。津波一時避難ビルに「福祉スペース」を設けることも考えている

↓東日本大震災でも分かるように「想定外」

が大事。（南海トラフ地震で港区の犠牲者が）二人という想定に不安がよぎった↓河田恵昭氏（関西大学教授・東日本大震災復興構想会議委員）を入れて、より詳しい分析を行ない、平成二十五年度前半にはさらに正確・詳細な被害想定を示せるだろう（市危機管理室）

◆資器材の保管は三階以上へ

↓（収容避難所である）築港小の救助資器材保管場所が校舎一階から三階に変わっているが↓（海溝型地震・津波に備えて）できるだけ三階以上に保管するよう調整しているようだ

↓津波でコンテナ流出の心配があるが、対策は↓網を掛けるよう、また岸壁には置かないよう指導しているが、業者の都合もあり徹底されていないのが現状（港灣局）

◆区民の行動引き出す方向を

参加したある委員は「この会も六回目というわけで、議論が深まり、防災計画づくりも話めに入りましたが、今後は、区民が役所に世話をしただけでなく、区民自らができることを引き出すような方向性なコミュニケーションを打ち出していけたら」と話していました。

どうなる「波除エリア」

赤バス廃止後の代替措置



→「採算が悪くても市の助成で支える福祉バスとして運行されてきた赤バス。3月末で廃止されたあと、どうなるかが心配されています」

「3月末に廃止されたあと、どうなるの？」
「波除エリアは走らせてくれるの？」。赤バス利用者の不安が募っています。

◆「福祉バス」としてスタート

赤バスは「採算が悪くても市の助成によって支える福祉バス」(大阪市)「ミニミニ系バス運営補助金交付要綱」の理念のもと、市交通局が「一般の大型バス路線ではカバーしきれない地点をきめ細かく結ぶ地域密着型のバス」として二〇〇二年一月に本格運行を開始。運賃は百円均一(子供は五十円)。高齢者や障害者の移動手段として重宝され、〇六年には市内全区の三十二路線で運行されていました。

反面、運行本数の少なさや目的地までの乗車時間の長さなどから利用は伸び悩み、市営バスの赤字体質の二因として市は二〇一〇年度末に全廃の方針を出しました。

が、利用者の声などを受けて「キロ当たり乗車人員二・二人の目標を達成できたら存続」との条件で二一十年十月～二二年三月に「需要検証」を実施。その結果を受けて昨年九月、現行千九路線のうち目標を達成できなかった二八路

線(港ループを含む)を今年三月末で廃止すると決めたのです。その上で市は各区に対し「地域で本当に必要な移動手段を検討するように」と指示しました。

◆区は運行を民間に委託

こうした経過を受けて現在、港区では、赤バスが廃止される今年四月からの対策として「民間事業者への運行業務の委託」を計画。公募にあたっては「創意工夫を活かした企画提案をして下さい」と呼びかけています。

公募の中では特に「走行エリア」について、「バス停留所から遠い池島・八幡屋エリアは必ず運行コースに入れるように」との条件をつけています。しかし波除エリアについては「弁天町駅や一般バス停が近くにあるので交通空白地域とはいえず、池島・八幡屋エリアに比べたら優先度は低い」として条件には入れていません。が、その上で「今の利用状態から見ても二丁の高いエリアは入れるように」との条件は付けており、波除エリア存続の可能性は残されています。

◆民間委託なら「波除」を条件に

こうした区の対応に対して、赤バスの存続を

訴え続けてきた「赤バスの存続を求める港区連絡会」は「月一日」区と協議。運行「コース」「波除エリア」を加えることを重ねて要求。その上で、『委託』とはいえ運行責任は港区役所が負う『公営』であり、コースや運賃、安全など基本的なことは区長に責任がある」ことを区にも改めて確認してもらいました。同会の石井ひさ子代表（八八）は次のように話しています。

「区は『空白をつくらない代替手段』と言いながら、実際には波除エリアを排除したコース案を示しました。理由として『98番バスの停留所が近い』ことを挙げられていますが、波除周辺のバス停は波除住民の日常生活の用向きとは全く逆方向に位置している上、別のバスに乗り継がないと多くの用向きには行き着けません。赤バス利用者の多くは乗り降りが難儀で、乗り継ぎによつて、それは「倍にも三倍にもなり、運賃の過重や乗り継ぎ時刻の煩雑化も心配です。どついても民間に委託するなら『波除エリアを含める』を必須条件にすべきです。交通弱者を崖から突き落とすような酷い仕打ちだけは絶対に避けて頂きたいです」。

環境

動物と共生できる街に

避妊手術の「基金」設立など

ねこサポーターが区に要望

「野良猫の避妊・去勢手術のための基金を作つて下さい」。人と動物が共に生きられる地域社会をめざして「公園ねこサポーター」などの活動が続ける尾崎キヌ子さん（池島（六五）が一月、港区に意見を投じました。これは田端区長が昨年末に示した「港区将来ビジョン（素案）」に対する区民の意見を募るために区が実施したパブリック・コメント（十一月十四日～一月十五日）に応じたもの。意見は大要次のようなものでした。

◆「共生」の観念を加えて

まちづくりの方向性の柱の一つに「安全・安心・快適なまちづくり」を入れられ、その課題として「防災」「防犯」「交通安全」を挙げられていることは、大震災や犯罪多発などを踏まえた、実に適切なことだと思えます。が、そこへ「動物との共生」という観点と課題を加えて頂

くと、さらに全面的で充実した内容になるのでないでしょうか。中でも近年問題となっている「所有者不明猫」については、一昨年春から「公園ねこサポーター」として活動が続いている立場から、次のような具体策を提案させて頂きたいと存じます。



→「人と動物が共に生きられる街づくりに向けて力を合わせましょ」と「公園ねこサポーター」などの活動が続ける尾崎キヌ子さん＝早朝の大塚山公園で

1、「街ね」制度「公園ね」サポーター制度」を、市と共に区も中心となって存続・発展させると共に、「これらの制度について広報・看板・放送等でさらに広く区民に知らせる。

2、市の「街ね」制度では行政の関わり（捕まえたり避妊去勢手術をしたりする費用への援助など）を「地域指定した日から六カ月以内」と区切っているが、所有者不明猫の問題は半年では解決しないので、期限を設けず、区と区民が連携して長く続けられる制度とする。

3、大阪市では、健康局が受け持つ「街ね」制度と、ゆとりとみどり振興局が受け持つ「公園ね」サポーター制度」があり、縦割りになっているが、「街」「公園」と区別せず、地域全体で取り組めるように、港区では一つの制度として、手続きの窓口も一本化する。

4、「街ね」制度では市主体で約三〇〇匹分の避妊去勢手術予算が組まれているが、この手術は面的に集中して行わないと効果がないので、港区では予算を拡充し、その財源を賄うため、広報・看板・放送等で寄付を募る（^{まかな}）ことによって尾崎市のよつな「動物愛護基金」を設立する。

—以上です。特に4は「公園ね」サポーターになりたいてど手術費用の負担がね…」という多くの声を受けての提案であり、しかも限られた区予算に大きな負担をかけるものでもないと考えます。「人と動物が共に生きられ、動物好きな人もそうでない人も共に気持ちよく暮らせる共生社会」という崇高な目的を持って市が立ち上げた「街ね」制度「公園ね」サポーター制度。これらを形だけに終わらせないためにも、港区としてぜひとも前向きな検討をお願いするものです。年頭に市長・区長が掲げられた「愛」繫「実現のためにも」。

◆動物好きもそうでない人も

今回の意見提出について尾崎さんは次のように話しています。

「私たち公園ね」サポーターは、ただ動物を排除するのではなく、せっかく生まれてきた命を尊重しながらも増やすことなく、人と動物が共に生きられる社会、動物好きな人もそうでない人も共に気持ちよく暮らせる社会をめざして活動しています。そして『生かすにも殺すにも費用がかかるのなら、ぜひ生かす方に使ってほ

しい』というのが、今回の意見やこれまでの活動を貫く想いです」。

街ね」制度 ^{まち} 大阪市が平成二十一年度にスタートさせた「所有者不明ねこの適正管理推進事業」の略称。地域合意のもと、地域に生息する猫の避妊・去勢手術を行ない、あらかじめ地域で定めたルールに基づいて、住民が主体になって所有者不明猫を適正管理することが目的。「地域指定した日から六カ月以内」が市の手術費用負担期間となっている。健康局が所管。

公園ね」サポーター制度 大阪市が平成二十三年度に発定させた「公園ね」適正管理推進サポーター制度」の略称。地域の中でも特にトラブルが目立つ公園での野良猫問題の解決を目的に、「街ね」制度」を都市公園に適用したものの、研修を受けた市民が「サポーター」となり、①公園の猫に避妊・去勢手術をして増えないようにする（手術費の約半額を市が助成）②一代限りとなった猫へのきちゃんとした餌やりで少しずつ数を減らす③後始末や周辺清掃で公園の環境美化に努める（^{あじ}）などの活動を行なう。ゆとりとみどり振興局が所管。

スポーツを通じて

池島 一・勝部泰臣 79歳
（かつへやすおみ）

それは一服の清涼剤だった。

「野球はチヨイ悪ではなく、すごいワルが多い中、真摯に野球に取り組んでいて心がきれいだなんて印象を受けた」（二月二十八日スポーツ）。誰あろう、P・T・Aのあの桑田の発言。

三十シーズン最下位、四十八連敗中の東大野球部の特別「一チに招かれて、「野球は体力、技術と思われがちだが、考えることが大事」とも秀才軍団に説いたぞうだ。彼の恩師・中村氏は「桑田はキャッチボールが上手だから言葉のキャッチボールも出来る。優いへへ」とすれば故障しない体をつくれるか、相手の気持ちを考えることが出来るんですよ」。

「の師弟愛と信頼関係、何年も経っているというのだ。うつつうつつ体調の二ノースの母曰。事後になって大騒ぎしている関係者たちに言いたい。同じスポーツを通じて、するところ、考えるところ、いじりも違つのかと。爪の垢でも煎じて飲むがいてい。

「地活協」で横のつながりに期待

築港・60代男性

「今なぜ『地域活動協議会』か」（前号一頁）を興味深く読ませて頂きました。私自身はあまり地域活動に熱心な方ではありませんが、この記事を読んだ限りでは「地域活動協議会」はこれまでの色々な地域活動を総合的に、また無駄なく進めるといってプラスになるだろうと思いました。特に町会や女性会やPTAなどの諸団体がそれぞれバラバラに進めていた活動に「横のつながり」ができればいいと期待します。とはいっても、これまでも同じようなことは何度か言われてきたので、今回も結局は掛け声倒れになるのかも……。それでも、NHK『大科学実験』ではありませんが「やってみなぐちゃ、分からない」といって姿勢やチャレンジするということには価値があると思います。

「地活協」より町会への一本化を

甲・70代男性

「今なぜ『地域活動協議会』か」（前号一頁）

を読んで、「またか」と思いました。というのは

これまでも色々な名前の団体が次から次へと生まれ、似たりよつたりの活動を、互いに重なり合いながらやってきたからです。実際、「地域活動協議会」と同じような性格の「社会福祉協議会」が既にあるにもかかわらず、現状が「バラバラ」であるのなら、それを解消するための新しい組織ができて結局は同じことになるのは目に見えています。それでも作るつというものは、つまりどうも、最後の女性のコメントにもあるように「地域に落とすお金を少なくしよう」という発想からしか考えられません。それならそれで、無駄をなくするための別の方法があるはずです。私自身は、地域には町内会があれば全て足りると思っています。なぜなら、町会には女性も若者も高齢者も、また労働者も自営業者も学生も、ほとんどの層が加入し、色んな部門があり、それらをフルに活用すれば、地域のほとんどの問題が話し合え、解決できるからです。だから、わざわざ新組織を作るよりも、むしろ雑多な組織を無くして町会に一本化し、その充実化を図る方が、よっぽど無駄なく地域活

動を進められるのではないだろうか。もちろん、一本化された町内組織が戦争へ協力させられたという戦前・戦中の苦い経験は十分に踏まえる必要がありますが――。

役には「あやけ」「あやけ」

（市岡・女性）

いつも「あやけ」（本紙「しら」）次に「あやけ」（編集後記）を読みます。「あやけ」はいつも面白いためになります。今月号（1月号）では大災は忘れた頃になって来（寺田寛彦）についての文章が勉強になり、「今の政治家は新しいことばかり考えると、こんな古い人の言葉をもっと真剣に受け止めな」と思いました。「あやけ」はたくさん記事を読むための一つの案内になり、「しら」書いてある記事を参考にしながら記事を読みます。すなわち、よく分かる「あやけ」面白く読む。

健康的な「あやけ」の風景

（夕田・70代女性）

「あやけ」の新年の「しら」（前号）の「あやけ」が健康的

で微笑ましかったです。一つの家族の「あやけ」からそれぞれの温かな関係が伝わってきて、今年一年、この人たちがみな無事に過ごされますようにと思わず祈っていました。書初めは日本の本場に素晴しい伝統です。「読み・書き・そろばん」を徹底的に教えた昔のよう、英語などよりも日本語を、そして筆や鉛筆で丁寧に心を込めて字を書くことを子供たちに教えるはいいのだと改めて思いました。

頑張れー若きタイル職人

（奥港・50代男性）

「タイル技術を後世に」（前号19頁）を読んで



↑読者の作品から汗流した

（市岡元町3）の絵手紙

で。地味な仕事で地道に技術を積み上げていく若きタイル職人の姿に感銘を受けました。体や頭を使っているもののつくりが軽視され、しかも生産の場が海外へどんどん逃げていく中で、こういった若者がいることは、日本の救いであり港区の希望です。大阪府が「なにわの名工若葉賞」という顕彰制度を設けていることも素晴らしいと思います。浜田朋大さんには、これを機会にさらに飛躍してほしいと期待します。

カラオケ、民謡…老人ハッピーに脱帽！

（波除・70代男性）

「高水準歌唱に大声援」（前号23頁）、「みてみて1年の成果」（同25頁）を読んで。カラオケに民謡に詩吟に、口頭の練習の成果を喜々として発表される高齢者の皆さんのパワーに、同じ世代として脱帽の思いでした。写真もたくさん、当時の様子が手に取るものでした。無趣味で家にいる人が多く、家内からうつうつしながら読んでいて、私としては、このおちのちのみなさんでも参加させてもらって、発表できるくらいにまでなれたら……と願っています。

活発な老人センター 解説も良かった

八幡屋・70代女性

「みてみて1年の成果」(前書35頁)を読ませて頂き、港区老人福祉センターの各教室の活発な活動の様子がよく分かりました。民謡『酒造の祝い唄』『外山節』や詩吟『京都東山』、歌謡曲『絆酒』『嘘』『いつから』の解説も味わい深く良かったです。

初めて知った「酒」、共通の懐かしさ

南市岡・60代女性

「故郷の話をしよう」(10月)から連載が楽しみでした。今月(1月)から語り部が沼島出身の浜口雄介さんになりましたが、淡路島の南側にこんな島があったとは初めて知りました。とても素敵な所のおかげで、一度行ってみたくありませんでした。浜口さんの子供時代の思い出は、同じ団塊世代として共通の懐かしさを感じました。あの頃は漫画『三丁目の夕日』にもあるように、日本のどこでも活気があったのです。来月(2月)は中学時代に入るとのことですが、どんな

思い出が語られるのか、今から楽しみです。

素晴らしいお話と皆さんの朗読

磯路・臨地照子

いつも知っているようで知らない身近なニースを楽しく読んでいます。あながいおまる一座の朗読(前書31頁)は、劇とはまた違う豊かな世界へ、音楽と共に案内してくれました。朗読はフジオでよく聴くのですが、あながいおまるさんやヨシシー原本さんらの朗読はお見事！という他ありません。特におまるさんは、情感あふれる声で自由自在に小説の世界を見せてくれました。何よりも私の心に残ったのは、“上品な言葉”です。有名な声優さんや女優さんらと比べても、私にはおまるさんの方が格段に上でした。何かの機会に、どのような方なのか、紹介して下さいね。

面白かった「笑天下」の喜劇

弁天・20代女性

「温かな笑いで包む」(前書33頁)、「笑わせ者」をさした「1」(同書35頁)が面白かったです。

ストーリーが詳しく紹介されていて、吉本新喜劇の笑わせパターンが次々と飛び出してくる様子が、実際に観ているように伝わってきました。何でも喜劇の方は、笑いの中にも「本当に必要なプレゼントは何か」を考えさせるシリアスな面もあったことが分かりました。弁天町市民学習センターにはあまり足が向くことがありませんが、今度「笑天下」の公演がある時にはぜひ訪れたいものだと思います。

裕福な幼少期が暗転、戦争はずい

弁天・80代女性

いつも「戦争体験」を一番に読みますが、今月(1月)は森上行茂さんの体験に読み入りました。「女中さんに顔を洗ってもらった」など裕福だった幼少期が写真からも偲ばれ、それが、お兄さんの戦死などで暗転していく様子がこれから語られると思いますが、そう考えただけで、戦争のむづさを改めて感じます。次書で語られる昭和十三年三月十三日の大空襲は私も体験しています。平和のため、子供たちのために、「この」「ナー」はぜひ続けて頂きたいと思います。

催しガイド

「ワークみなと」「東北食品市」

東日本大震災

で被災した福島県いわき市の精神障害者作業所が震災前の地元産材料、宮城県産材料、昔ながらの製法で作った体と心にやさしい豆腐・豆乳・あおなみめ青豆腐・ドーナツなどを販売し、復興努力を物心両面で支援。毎月第一・第四火曜十五時半から「売り切れ次第終了」▽ワークみなとは主に精神障害者を対象とした就労継続支援B型の指定障害福祉サービス事業所（夕凧一六・三、**☎六五七一・七五二一**）。

■ムチ打ち（首・腰）無料相談会

交通事故で

ムチ打ちになった被害者を対象とした無料相談会。二月二十四日（日）十～十八時に行政書士のむら事務所（築港二・七一一・六〇八）で。一人約一時間。事前予約制（電話かEメールで。「どうしたら正当な補償が得られるかをアドバイスします」「事故後、早めの相談が良い結果につながります」（同事務所・野村光恵さん）。Eメール：info@jikkou110-nomura.com、TEL：六五七六・六〇七八、FAX：六五七六・六〇七九。

■緑の地球ネットワーク（GEN）「黄土高原」

「キングツアー」

中国の黄土高原を訪問し、

緑化協力の成果を観察し、村人と交流し、失われた緑を取り戻す試みを体験。四月六～十二日（八泊七日）。費用は一般十五万七千円他、学生十三万七千円他。定員約三十名。申込締切二月二十八日▽GENは中国山西省大同市の黄土高原で一九九一年から緑化協力を続ける認定特定非営利活動法人。地球環境のため国境を越えて力を合わせている▽詳細は事務所（市岡一・四一四・五階、**☎六五七六・六二八二**）へ。

■「j'm paradise」

二月十七日（日）

十一～十八時、港区民センター（井天一一・五）で。「子供たちに健全な遊びを」と企画された恒例イベント。今年のテーマは「からだ」。遊びながら、ふだん気づかない体の機能や不思議を体験。舞台催しの他、ワークシヨップ、食べ物、展示などの「コーナー」。糸あやつり人形劇も。入場無料。主催は大阪市「コミュニティ協会港区支部協議会」などから成る実行委員会。問い合わせは**☎六五七二・一〇〇二〇**港区民センターへ。

■港区民卓球大会

三月二日（日）十時から港

スポーツセンター（田中3）で。男子シング

ルス 女子シングルス、男子ダブルス（混合可）、女子ダブルスの出場者募集。対象は区内在住・在勤者（学生・生徒・児童除く）。費用はシングルス五百円、ダブルス千円（二チーム）。重複出場は不可。申込は費用を添えて港区民センター（井天一・一・五、**☎六五七二・一〇〇二〇**）へ。

■「コミュニティ講演会」

三月九日（土）十四時

～十五時半、港区民センター（井天一・一・五）で。藤原明さん（りそな総合研究所プロジェクト・フェロー、港区長アドバイザー）が「地域における「コミュニティづくり」をテーマに地域活動協議会や担い手育成について語る。定員三百人。入場無料。申込不要。主催は港区役所と（財）大阪市「コミュニティ協会港区支部協議会」。問い合わせは**☎六五七二・一〇〇二〇**同センターへ。

■「家庭用計量器 無料検査」

正しい計量につ

いて理解と関心を高めるため家庭用計量器の精度を検査。港区では二月二十日（水）十一～十五時に港区役所で。問い合わせは大阪市経済局計量検査所（港区田中二・一・二二六、**☎六五七七・五八八八**、FAX六五七七・五八〇八）へ。

若い力を世のために！

港区で738人が新成人に
「記念のつどい」に520人



→この溢れるエネルギーを世のため人のために
と願つ11月14日、井田町オーク広場で

無限の可能性を秘めた港区の若いエネルギー
が一堂に会し、決意も新たにそれぞれの飛翔を
始めました。「成人の日」の一月十四日、港区
では七百三十八人（男二百七十二人・女三百六
十八人、昨年より十九人減）が新たに成人とな
りました。このうち五百二十人（男二百六十三
人・女二百五十七人）がホテル大阪ベイタワー
（井田）で催された「港区成人の日・記念のつ
どい」に参加し、新たな門出を祝福されました。

★世界平和と発展に貢献を

午前十時からの第一部「記念式典」では主催
の「成人の日 記念のつどい実行委員会」を代表
して今村末吉・港区社会福祉協議会会長が「多
くの権利が得られると共に社会人としての責任
ある行動が求められる世代になられた。深刻な
雇用情勢や大震災、世界各地の紛争など厳しい
時代だが、新しい日本と港区の創造へ若い力と
発想を発揮してほしい」、田端尚伸・港区長が
「長期不況や少子高齢化、深刻な環境問題など、
まともに生きていけるかどうか、不安で不透明
な時代に成人を迎えられたが、若い力でこの状
況を切り開き、世界の平和と発展に貢献してほ

←520人の新成人が参加した「港区成人の日
記念のつどい」。上は会場、下は「新成人のこ
とば」を述べる今井康貴さんと佐々木優衣
さん（共に八幡屋校下）



しい、西徳人・市議員は「バブル崩壊期に
生まれ、『失われた十年』の中で育ち、一度
の大震災もあったが、今はそれを乗り越えよう
としている時代。『お金さえあれば』ではなく、
絆（きずな）な目に見えない物を大切に、夢と希望と
目標を見据え、努力を惜しまず歩んでほしい」
とそれぞれ新成人への期待を表明しました。

★大人の自覚と責任持つて

新成人代表の今井康貴さん・佐々木優衣さん
（共に八幡屋校下）は大要次のように「新成人
のことば」を述べました。

「選挙権や国民年金保険料納付義務などが生じ、大人として認められ、一層責任ある行動をとる必要が生じたことを感じた。これまでの家族や先生、地域の人々などからの支えや励ましや指導を忘れず、これからは励まし指導する立場に立てるよう努力していきたい」。

活気の中に騒がしい一幕もありましたが、注意されれば素直に従うなど全体的には真面目な姿勢に好感の持てる式典風景でした。

★スライドや恩師の言葉に歓声

第一部は「お楽しみコーナー」。新成人の横山



→第2部では出身中学校別に懐かしい光景がスライドで上映されたり恩師がはなむけの言葉を贈ったりした(写真上は進行役の横山さん⑤と小川さん、下は市岡東中恩師のあいさつ)

和也さんと小川修平さんの漫才コンビのような元気で「ユーモア溢れる司会で、中学時代のスライド上映や恩師のあいさつが学校別に行なわれました。これは新成人士二人が運営委員として企画・準備したものです。

★自分を信じて人生切り拓け

このうち市岡東中は横山和也さんと佐藤郁佳さんの司会で女性恩師が登壇、「私自身が学ばせてもらった三年間だった。これからも激動の日々が続くが、自分を信じ、人生を切り拓いてほしい」とはなむけの言葉を贈りました。

築港中は井上大和さんと矢田花子さんの司会で「栄光の架け橋」(ゆず)をBGMにスライドが上映されたあと、男性恩師が登壇、「大変な時代だが、自分を信じて頑張つてほしい」と激励の言葉を贈りました。

★自分のいこうと必すある

港中は高崎聖人さんと米玉利綾さんの司会で恩師二人が登壇、「大人としての責任が出てくるのはある意味気持ちの良いこと、カッコいいこと。自分のいこうとは必すあるから、それを見つければ必ずよい」。未来は君たちのもの」

←第2部でスライド上映を司会する築港中卒業生⑥と、恩師に感謝の品を贈る港中卒業生⑦



(女性教師)、「二年だけの付き合いだったが、色んなことがあった。目標を持って頑張れ」(男性教師)、「体育祭に取り組んだ日々は今でも鮮明。思い出が詰まった学年だった。夢を持って人生を。今の頑張りが将来に繋がる」(男性教師からの手紙)などの言葉が贈られました。

★大変だが夢と希望持つて

港南中は小川修平さんと質谷美由さんが司会。男性恩師が「少年少女が立派に成長した姿に胸が一杯だ。時代の流れに乗っていれば生きられた我々の時代と違って、やる気があっても正規の職に就けない時代。生優しい状況ではないが、大きな変革を担えるのは若い力しかない」と期

待の言葉を贈り、「フエイフォン」をBGMにスライド上映が行なわれました。

市岡中は島拓真^{たくま}さんと田中映満^{えみり}さんの司会で男性恩師^{おんし}一人が登壇、思つよつにいかないことの方が多いだろうが、人生まだまだこれから。頑張れ「たくましい姿に成長を感じた。自分にとって初めての生徒で手を焼いたが、教えられたことも多かった。今あるのはあの日々があったから。大変な世の中だが夢と希望を持って進んでほしい」と激励の言葉を贈りました。スライドで懐かしい光景が映し出されたり、恩師が登場したりする度に拍手や笑いが起き、会場はさながら同窓会の雰囲気でした。



→第2部ではなむけの言葉を贈る港南中恩師①と恩師を紹介する市岡中卒業生②

若者

得意分野で社会貢献

新成人にぶっつけインタビュー

「港区成人の日 記念のつどい」(17頁)に参加した新成人に、今の気持ちやこれからの生き方について、ぶっつけ個別インタビューを試みました。どの感想・意見からも、困難の多い世の中でも自分の個性や得意分野を生かして社会に貢献したいとの意欲が感じられました。

× × × × ×

自分も楽しく社会にも役立つ生き方を

港南中卒 賞谷 美由^{そたに みゆ}さん



「新成人になった実感や自覚はまだなく、来

たな笑という程度の受け止め方ですが、今日

のつどいで運営委員として企画や運営^{たすく}に携われたことは一生の思い出になりそうです。これまでの人生で一番辛^{くる}かったのは、周囲との人間関係がうまくいかなかった時ですが、それを乗り越える中で色々なことが学べ、今の自分があると思っています。逆に嬉^{うれ}しかったのは、両親のもとに生まれ、こつとして今まで生きてこれたことです。職場では売上を増やさなければならぬがなく、しんどいこと、難しいことはもちろんありますが、新鮮でおいしい魚を買って帰られるお客様の笑顔に触れることで、『この仕事をやっていてよかったなあ』と満足感や充実感を覚えます。今はひどい失業や格差があり、生きていくこと自体が難しい世の中ですが、できればそんな心配なく自由に楽しく生きていける社会になってほしいです。これからは、今言ったようなプラスとマイナスの経験を生かし、今の仕事を頑張りがちから、ボランティアなどを通じて、自分も楽しく、世の中にも役立つ生き方をしたいと思っています」(市岡在住、市岡小→港南中→大正高→阪神百貨店の鮮魚店勤務)

通訳を通じて平和で仲の良い世界に

港中卒 小西賢太さん



「成人になってますます思ったのは、これからは恥ずかしいことはできないな(笑)ということです。今日のつどいでは中学時代の恩師の言葉が心に残り、改めて大人になった実感と自覚を持つことができました。これまでの人生で辛かったのは、そんな先生方からの厳しい叱咤ですが、それがあったからこそ今の自分があると感じています。また、ファミレスのバイトで、厨房での技術と共に、接客や上下関係など人間関係の大切さを学べたことも大いに役立っています。今の日本には気になることもありますが、その一方で、東日本大震災後に多くの人が、自

分も苦しいのにボランティアや募金で復興を助けようとしたことには大きな希望を感じ、『日本人のええところや!』と誇りに思いました。そして、これからの日本には、もっと世界へ進出して、そんな日本の良いところを世界へ広げることが期待します。そのためには自分にはツアーコンダクターとして海外へ出、できれば通訳の仕事に就きながら、日本と世界の人々が平和に仲良く暮らせることに貢献したいと思っています。す「八幡屋在住、八幡屋小→港中→常翔学園高→摂南大学文学部英文科」

英語力生かし、感性を大切に生きたい

築港中卒 矢田花子さん



「今日のつどいには築港中学校下代表として

運営に携わりましたが、特にスライドショーを楽しく見て頂けたと思っています。選挙権ができ、投票といったものを経験したことで、成人になったことを実感できました。これまでの人生で辛かったことと言えば、今、父が入院し、母と私で看病に通っていることです。逆に楽しかったことは、スケートでインターハイに出場できたことです。結果は残せませんでしたが…。また、これまでの人生で一番自分のためになったと思うのは、そのスケートの練習を通じて精神力が養われたことです。今の港区は近くに海遊館など色々な施設があり、様々なイベントが行なわれたり、多くの観光客が訪れたりするところが楽しいです。これからの日本や世界に望むことは、自分の意見をはっきりと伝える社会。様々な情報に惑わされない社会になってほしいということです。私自身については、将来は英語力を生かせ、英語に関係する仕事に就きたい。そして自分のフィーリング(感性)を大切にしたい生き方をしたいと願っています」(築港在住、築港小→築港中→旭高→関西外国語大学外国語学部英米語学科)

貿易を通じて世界のレベルアップを

市岡中卒 庭瀬翔太さん
にわせ しょうた



「新成人になってます思ったのは、今、元気がない大阪を盛り上げるために、社会人として少しでも貢献できたらーということですよ。これまでの人生で大きな挫折を感じたことは特にありませんが、その一方で、いい友だちに恵まれ、自分が必要とされてきたことはとても嬉しく感謝しています。今の日本や世界をみて思うのは、学歴や経済力を重視する社会の在り方への諦めからか、向上心を持ってない人が多いということですよ。自分はそんな中でも、できれば海外へ出て、貿易関係の仕事やボランティア活動に携わり、各国がそれぞれの良いところを交

流・刺激し合い、世界主体がレベルアップする

ことに貢献したいと思っています」(井大住氏)

井大小↓市岡中↓長尾高↓不動産井勤務

× × × × ×

お世話になった人に恩返しできる人生を

築港中卒 東由依さん
あずま ゆい



「新しく成人になってます思ったのは、年下の子に胸を張れる生き方をしたいということ。いいいい先輩でありたいということですよ。これまでの人生で苦しかったことは特にありませんが、嬉しかったのは、二十歳の誕生日を皆からサプライズで祝ってもらえたことです。プラスになったのは、職場で技術や人間関係を学べたこと。今の日本で一番心配なのは、東日本大震災のような災害がまた来ないか、ということので

す。他にも気になるとはたくさんありますが、

特に政治家など上に立つ人には、『もって皆が希望を持てる日本にしてほしい』と強く願います。

その中で自分としては、今の美容の仕事を

全力で頑張りながら、これまでお世話になった

方たちに恩返しできるような生き方をしたいと

思っています」(南市岡住氏 築港小↓築港中↓

泉尾高↓美容院勤務)

× × × × ×

教職に就き、責任持って行動できる人に

市岡中卒 松浦七海さん(写真右)
まつうら ななみ

(左は友人の中下愛さん)
なかした まな



「今日のイベントでは各中学校の発表が楽しか

ったです。新成人になったからといって特に気持ち持ちは変わりませんが、大人としての責任を問われるので、その点をわきまえて行動したいです。これまでの人生で苦しかったこと、辛かったことは特にありません。友人にしろ先生にしろ、自分の周りには良い人はかりで、特に多くの良い友人に恵まれたことには本当に感謝しています。一番うれしかったのは高校で空手部に所属してインターハイに出場し、選抜団体戦で三位になったことです。今の社会で嫌なところは、やる気のある人が報われず、見た目で色々と判断されること。逆に良いところは、個性がだんだんと尊重されるようになってきたことです。また、今の日本は考え方が小さいので、諸外国のようにもっと大きなスケールで考え、行動できる国であってほしいと願っています。私自身については、将来は学校の先生になり、責任を持って行動し、周りの人から好かれる人間になりたいと思っています」(磯路在住、磯路小↓市岡中→東大阪大学敬愛高→大阪学院大学法学部法律学科)

技術

愛される料理人に

なにわの名工若葉賞

日本料理・林勇佑さん

優秀な青年技能者を大阪府が表彰する「なにわの名工若葉賞」に港区から二人が選ばれました



→「なにわの名工若葉賞」に選ばれた若葉

日本料理人・林勇佑さん(築港4丁目の

「割烹ぶろ多」の調理場)

た(十一月)で既報。その一人、林勇佑さん(二八)を職場に訪ね、受賞の感想や、受賞に繋がった技術について訊きました。

◆岐阜県から専門学校へ

築港四丁目の日本料理店「割烹ぶろ多」で働く若き日本料理人・林さんは昭和五十九年、岐阜県多治見市に、サフリーマンの父、塾経営の母のもと、二人兄弟の第子(次男)として生まれました。地元の小・中・高校を卒業し、大阪へ出て、阿倍野の辻調理師専門学校で一年間料理の基本を修得。卒業して「ぶろ多」に就職し、店の寮で単身生活をしながら修業を続け、現在は大阪府日本調理技能士会の青年部員として業界発展のためにも活動しています。

◆技能五輪で敢闘賞

転機になったのは店に入って二年目、二十歳の時でした。店の主人や先輩から「技能五輪に出てみたいんか」と勧められ、「まだ一通りのことができるようになったばかりやし…」と戸惑いもありましたが、思い切って挑戦しました。

技能五輪全国大会は平成十七年秋の二日間に亘って山口県で開催されましたが、日本料理部

門には百人前後が出場、二十数人ずつの四グループに分かれて技を競いました。課題は、①れんご鯛の姿造り（五十分）②牡蛎と牛蒡の八幡巻（五十分）③大和芋を使ったたずな寿司（九十分）一の三種目でした。最初は「大根の桂剥き」に手が震えるほど緊張した「そうです、無我夢中でやっているうちに集中でき、終わってみれば「練習してきた以上に出来た」そうです。結果は上位十四人（金メダル一人、銀メダル三人、銅メダル三人、敢闘賞七人）に入り、敢闘賞を獲得しました。

◆こだわりの「鯛の山椒焼き」

今回の「若葉賞」はそんな実績が認められての受賞でしたが、その選考過程では、林さんの持つ技術そのものにも関心が集まりました。特に焼き物料理、中でも「鯛の山椒焼き」での優れた技能は選考委員を唸らせたといえます。この調理では、まず鯛を水洗いしてから骨付きのまま一枚におろします。臭みを取るため薄く塩を振って二十分ほど寝かせた上で酒に潜らせます。これは身の新鮮さを保つため、それに味に深みを持たせるためです。次に、予め

作っておいた山椒入りのタレに十〜十五分浸け込みます。バットに載せて余分な水分を落として、それでも残った水分をペーパーで拭き取った上で、焼き台（ガス火）に載せます。そして、先の山椒タレを掛けては焼き、焼いては掛けを数回繰り返して焼き上げていくのです。

◆磨き上げた焼き加減、隠し包丁

この料理の一番のポイントは焼き加減で、焼き過ぎても焼き足りなくても鯛の旨みが生かれません。また味の決め手となるタレに入れる山椒の割合（割合）も重要で、すりつぶし方が細かすぎても粗すぎても山椒の香りが生かれません。さらに隠し包丁。お客さんが食べる際に骨から身だけを無駄なくすっきりと外せるよう、骨と身の間に予め斬り込みを入れておくのです。こうした技術は、主人や先輩から基本を教わりながらも、結局は「自分の経験と感覚で磨き上げていった」といいます。

◆7時半から22時まで

職場では一年ほど前から主任になり、追いまわし、つまり後輩たちの追い立て役をしているという林さん。日々の仕事は朝7時半に始

←後輩と談笑する林勇佑さん。主任として職場のコミュニケーションとチームワークを築き上げるのも大切な役目だ



まります。昼の仕出し弁当の段取り、仕上げをして十一時ごろ朝食をとり、昼にはフレンチ営業。午後二時から交替で休憩。四時ごろ朝食をとり、その間にも晩の仕込みは併行して続けます。そして五時半から九時まで晩の営業。洗いや片付けは基本的に営業時間内で済ませ、終

業後に夕食。十時ごろまでが終わります。

◆嘗の言葉に「頑張る」

そんな日常生活の中、気になるのはやはりお客さんの反応です。「お嘗めの言葉を頂いた時には日本料理をやつてきて本当に良かった、これからもっと頑張るの、と思います」。

もちろん楽天的な性格で、「ストレスがたまるない方」なので、辛いとか苦しいとかはあまり感じたことがないそうですが、それでも店に入つて最初の頃は、思うように、また言われたように動けず、もどかしさを感じたこともあったそうです。「失敗はそれこそ山ほどあり、どわといつて思い出せない（笑）はずです」。

◆日本料理の魅力にハマる

小さい頃から工作なぐ手で形ある物を作るのが大好きだった上、両親が共働きで、よく自分で食事を作ったりしたことから、「同じ物作りなら身近な料理を」とこの道を選んだという林さん。専門学校へ入った頃は、麺類が好きなどからイタリア料理に進もうと思っていましたから、三つ四つ月して「自然には日本食が役立つ」と考え直し、日本料理へ進もうと思ったそうです。

そんな、どちらかといえば素朴な動機で関わるようになった日本料理ですが、今ではその魅力にすっかりハマっています。その要素として林さんは、①味や盛り付けなど全てが繊細で芸術的であること②その結果として飽きが来ないこと③舌だけでなく五感に訴える力を持っていること一を挙げます。

中でも焼き物は「手を加えることで素材の色々な表情が出せる」ことや、「日本料理の華である懷石料理の中でも特に光るのが焼き物である」ことから自然と力が入り、モチベーションも上がるといいます。

◆めざす料理人像

そのように好きな道を進む途上で受賞した「若葉賞」。どう捉えてこの栄誉をどうしよう。

「これまで頑張ってきたものが形になったこと、また主人や先輩方への恩返しになったことが一番嬉しかったです。技能五輪での取組賞ももちろん受賞理由になったと思いますが、大阪の食文化発展に尽くしてこられた店の主人（今回「なにわの名工」に選ばれた室田大祐さん）次々にインタビュー記事予定の活動に同行と

せて頂く中で、勉強したり交流したりしてきたことも評価されたのではないのでしょうか。先輩はもちろん、後輩たちにも、また応援して下さい業界の方々すべてに感謝しています。今後は賞の名に恥じない仕事を心がけると共に、これまで培ってきたものを後輩に伝えていくのも自分の役目かなと思っています。そして究極の目標として、十人が十人、誰にも愛される料理人になりたいと思っています」。

そう語ったあと、調理場で後輩たちとぶざけ合う林勇佑さん。素直で謙虚な姿勢、そして強い意志を感じさせるきりりとした瞳が印象的な好青年でした。



自分を史で過ごす 綴って良き余生!

大学から都市銀行に就職しましたが、職場の人間関係からうつ病に陥り、休職と復帰を繰り返した場々に40歳で退職。以後は京都で喫茶店を営み、結婚もせず、山登りを趣味に生きてきました。そんな人生の意味を問い直したく、聞き取りをお願いしました。(60代男性)

★文書全般の代筆も承ります★

港新聞・飯田編集事務所 ☎6571-4636

繁栄商店街で豆まき

「子供の心に楽しい思い出を」



→「ガオー」と震いかかる鬼にひるみながら
も豆をぶつけ続ける子供たち。2月2日正午
前、南市岡の繁栄商店街「学童大尊会所」前で

「子供たちの心に楽しい思い出を」。節分

の日を前にした「月・日、繁栄商店街（南市岡

3）の寄り合い場所「学童大尊会所」前で福豆

まきが行なわれました。同商店街振興組合（難波

利正理事長）の主催で一回目。

◆「鬼は外 福は内」

豆まきは正午を挟んで「回行なわれました。

真っ赤な顔に真っ赤な巨体、長い金髪に毛糸の

腹巻をした鬼が「ガオー」と登場すると、

待ち構えていた十人ほどの子供たちはちよつと

怯んだ様子。「ギャー」と泣き出す幼児も。

が、司会者の「悪い鬼さんを退治しよう！」の

掛け声に元氣を得、男の子を中心に「鬼は外

福は内」と豆をぶつけ始めます。じりじりと

後退し、次第に包囲網を狭められる鬼。「だいた

弱って来たぞ」と司会者。とうとう鬼がたま

りかねて座り込んだのを見て、子供たちは「ば

んや〜い」。司会者は「やった、みんな強い

な〜。その元氣と勇気で、これからもお父さん

お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんを守

てあげて下さいね」。使命を果たした子供た

ちはちよつとした興奮状態のまま、ポテトチ

ップなどのお土産を受け取り、しよげる鬼に「バ
イバイ」と手を振りながら、お母さんたちと
引き揚げていきました。

泣きそうになりながらも豆をぶつけ続けてい
た渡辺琳音ちゃん（四）は、ポテトチップスを
手に「こわかった」。母親の八重子さん（南市
岡三）は颯来くん（二）を抱きながら「その
おふとん屋さん（ひらのや）から教えて頂き
初めて参加しました。娘はちよつと怖かったよ
うですが、いい思い出になると思います」。

◆商店街と地域の活性化に

司会を務めた同商店街専務理事の近藤洋史
さん（五五）は「日本の良き伝統行事を子供た
ちに伝え、楽しんでもらいたいと去年から始め
ました。小さい時のこつこつ経験はきつこつ
までも心に残るでしょう。またこつこつイベン
トを通じて多くの方に商店街へ足を運んで頂き
地域の活性化にも貢献できればと思っています」
と話していました。

なお、この日の福豆は同商店街「松友米穀店」
の商品を使用。また同日、同商店街に窯焼きい
ちごの店「Ciao」が出店しました。

スポーツ短信

■少年野球MINATO連合(港ヤンキース

福岡ヤンチャーズ、市岡アトムズ、港待シヤアンツ、弁天ホワイトボーンズ北恩加島少年野球部の軟式六チームの秋季リーグ大会が終了し、二月一日に閉会式。各チームは他団体のお別れ大会などに出席し、健闘。八六五七六・七一九一駿河。

■大阪・港ボーイズ(少年硬式野球)は広々と

した太子(たいし)グラウンドで練習Ⅱ写真。一月は和歌山合宿でさらに戦力アップを図る。硬式に興味



ある小中学生の体験練習・入部説明随時。八

五七二・六七五スポーツさんわ又は八〇九〇

・二二六・四九六四平野。

■港区小学生バレーボール教室「大阪みなと」

二月は二つの大会と卒団式があり、今年度は八名の八年生が卒団予定。三月は、日、三十日(土)に池島小で、二十三日(土)は三先小で、三日(日)は南市岡小で九時から練習。新入部員募集中。見学・体験歓迎。八〇七〇・五八五九・四八三二萬井。

■弁天出身の天ノ若(あまのわか) 大相撲初場所(二月十三

と二十七日、東京・西国技館で三勝四敗。序段・東四三枚目、玉ノ井部屋。本名天野清智(きよとも)、三十三歳。得意技は突き押し。平成七年夏場所入門。過去最高位は序二段西一四枚目(平成七年初場所)。



演劇ガイド

●「くらとんば一座」横堀川の幽霊

川に死体が浮いた晩、必ず川のそばに美女の幽霊が…。お馴染み七軒長屋物語シリーズ「上方平次捕物控」の新版。石炭倉庫を拠点に人間味溢れる芝居を演じ続ける庶民劇団の第二十五回公演。新進女流脚本家・島村由花(ゆか)作、あながいおまる演出。二月二十三日(土)十四時、二十四日(日)十二時、十四時の三回。前売千八百円、当日千三百円。問い合わせ・申し込みは会場の石炭倉庫(波除ハ・五・一八、JR弁天町駅から国道四三号を北へ直進、安治川堤防突き当たり右すぐ。八六八八・〇六八四へ。

住まいの防犯レベル高めよう

- ①ワンドア・ツーロックは常識
- ②ピッキングに強いカギに交換
- ③窓にも補助錠の取り付けを

PHS・携帯OK ☎0120-70-5569

(ア) 港カギ防犯センター

安全・安心をご提供します

港区港晴1-4-8 (港晴小学校並び)

★大阪府鋭前技術者防犯協力会会員
★港防犯協会会員 ★防犯設備士第00-6738号

やさんの しるし 紙芝居

きしもと やすし

南市岡在住画家 岸本 安司 (81)



港湾で昼寝していた

たくましい荷役労働者

この絵は太正保健所に勤めていた三十代の頃の作品です。うたごえ運動など勤労者の芸術運動が盛んだった時代。自分も「多分にもねず、その中の演劇志望」でしたが、ひよんなこと（このころ台詞が覚えられないという決定的な理由）から画家志望に変わり、とにかく休みの日には大阪港辺りをうろついて絵のネタを探

していました。

「国を造つてゐるのは労働者や。働く人物を描こう」。当時は高度経済成長の真っ只中。港湾は土・日でも活気がありました。うだるような夏の昼下がり、数人の労働者が貨物船の陰で昼寝していました。そのうちの一人はいかにも荷役向きの日焼けした体を、大きな棄缶と大きなアルミの弁当箱を抱え込むように折り曲げています。当時から職場で「奇人変人」と見なされていた私は「弁当箱の大きさは一体誰が決めるんやろ…」などと自分でも訳の分からんことを考えながら、「男が目を覚まさんうち」と必死でスケッチし終えました。

ところが、帰ってから肝心のキャンバスがありません。給料前で画材を買った金があったのです。仕方なく、勝手にアトリエにしていた保健所の倉庫にあるベニヤ板をキャンバス代わりにしたのですが、そのスペースの長大さ、材質の粗さが男の長身と筋肉質にぴったりでした。怪我が功名といつ奴です。果たして、男の深い寝息が聞こえてきそつな念心の出来栄に「俺はやっぱ役者下の画家に向いてたん



岸本安司「1962年 油彩」

や」と更に自信を深めたものでした。

遙か半世紀も前の夏のことだ。その大阪港も、今では当時の活気が嘘のように消えてしまっていた。国を造っているのは変わらず労働者ですが、その労働者の元気がまるであまりません。国の偉いさんや社長さんが、これはどう仕事をみな外国へ持っていくってしまったのですから無理ありませんが…。それでも願わくば、麦藁帽子に薬田アルミの弁当箱の似合う、そして、広いバニヤ板から食み出すほどの労働者を、もつと描いてみたいもんじゃないでしょうか、いやホンマに。

きゅう・やう 一九三二年港区生まれ。

小豆島暮らしを経て三先国民学校から大阪、香川の工業学校へ。戦後は工場勤めを経て城東保健所、大正保健所に勤務。演劇活動をきっかけに絵画を始め、定年を挟んで「高速道路なんかいつか」「役所の腐敗を何とかせよ」などの社会的警鐘や、「隙間」「田舎」「けったい」への愛着を込めた独自の画風で描き続ける。賞を厭い、組織に属せず、生涯一匹狼画家を貫徹中。

伝統

力強い動きで魅了

新年の三社神社で武道奉納



→ 神道夢想流杖道を披露する佐藤政子（藤かほり）さん⑥＝1月12日、三社神社

新年恒例の「神道夢想流杖道演武会」が一月十日午後、三社神社（磯路）で行なわれ

ました。波除在住の佐藤政子さん（演歌歌手・藤かほりさん）が代表を務める「神道夢想流杖道并天道場」が主催。七回目。今年一年の区民の安全と健康、港区の発展などを願って道場生一十数人が様々な種類の演武を奉納しました。

◆男性の迫力、女性の切れ

演武に先立って本殿でお祓いを受けた演武者たちは、凛々しい紺の稽古着姿で境内に登場。本殿に一礼したあと、①神道夢想流杖道②霞神道流剣術③全日本剣道連盟杖道④一角流十手術⑤英信流居合術⑥内田流短杖術（別名「ステッキ術」）⑦一心流鎖鎌術などを次々と披露しました。

冬晴れの空の下、きびきびした動き、「エイ」「オウ」「トア」などの力強い掛け声、鋭い目つき、男性の迫力、女性の切れ、居合術では真剣のピコッという音が境内の冷気を切り裂くようでした。見物に訪れた人々は「見事やなあ」「気持が引き締まるなあ」などと感心しながら、種目ごとに盛んに拍手を送っていました。

↑全日本剣道連盟杖道を披露するシミーさんと
と二角流十手術を披露する黒川徳子さん④



◆問合いが難しいが面白

演武会終了後、出場した道場生に訊きました。
全日本剣道連盟杖道を披露したシミー・バルグ
クビストさんはスウェーデン生まれの二十七歳。
昨年四月に来日して和泉府中市に住んでいます。
母国で少年時代から剣道をやっていました。
で、杖道には以前から興味があり、ネットで調
べたこの道場を知り、七月から通っています。
「杖道は剣道よりも構え方や持ち方が多彩です。
一番難しいと感じるのは問合（まあひ）いやタイミン（タイミング）が
ですが、そがまた面白（おもしろ）いのでめめります。
今日は初めての発表で、とても緊張してしま
いましたが、これから楽しく続けていきたいと思います。

す」と話していました。

◆やるほど「見方が深まる

また神道夢想流杖道を披露した広瀬和子さん
は父屈在任で四十三歳の会社員。この道場で杖
道を始めて十年目に入ります。「最初は友達に誘
われるまま習っていましたが、やっているうちに
ハマってきました。同じ技でも見方が深まっ
てきているのを感じます。今日は緊張してちょ
っとミスもありましたが、顔には出さず（笑）
演じ通しました。幾つもある技はどれも深くて
難しいです。今は「古流（ふるりゅう）を勉強中です。これ
からも楽しみながら一つ一つマスターしていき
たいと思っています」と話していました。



↑英信流居合術を披露する谷川良一さんと
神道夢想流杖道を披露する広瀬和子さん④

◆今年も人を思いやる心を持って

また佐藤代表は「今年も三社神社で奉納させ
て頂き、嬉しく光栄に思っています。練習生は
昨年も全国大会出場や講習会参加などそれぞれの
目標を持って頑張ってきましたが、今年も弁
天道場の名に誇りを持ち、人を傷つけず、人を
思いやる心を持って精進（しやうじん）して参りたいと思っ
ています。区民の方々が今年一年、無事に過
されるようお願いいたします」と話していました。

◆400年の伝統、多彩な展開

佐藤代表によると、杖道とは四百年の伝統を
持つ神道夢想流杖術を母体として発展・普及し
た武道で、杖（じょう）と呼ばれる四尺（しふく）寸二分（しふぶ）約一
・一八（いっぺん）の丸木の棒を自在に操（さ）ること、剣・
槍（やり）・薙刀（なぎなた）などの長所（ちやうそ）を採り入れた多彩な展開が
可能。その技は「百を超え、全（ぜん）くマスターする
には十五〜二十年を要する」とされています。

なお、神道夢想流杖道・弁天道場では毎週水・
土曜日十八時半〜二十時半に稽古（けいこ）。場所は市岡
元町三・二二一六の三和建内（さんわけんない）。問い合わせ
は☎六五八二二一五四小山 悟（やまのり）さん。

港区民の手記をもとに、地元在住の作家・青木健一がつづる当地ドラマ。区内の地名や人名が登場しますが、総じてフィクションです。第一回は、戦争の悲劇を乗り越え、逞しく生きつぎた女性、村岡弥栄子の物語――。

弥栄子の空

やわらかな秋の日を受けてきらきらと輝きながら、掛けたばかりの水が墓石の顔を流れ落ちた。午前の空はどこまでも高く、碧かった。「あの時も、こんなふうに晴れとったなあ……」。つぶやきながら、弥栄子は腰を上げた。

大阪府北方の山手にあるこの墓地への月一度の墓参りも、九十を過ぎた身体にはけっこうきつい。手桶を提げてぼつぼつと歩き始めて、ふと振り返った。「村岡家の墓」と刻まれた小さな墓碑。そこには父母、そして二人の夫が眠っている。二人の夫――山崎満雄と村岡二一。その最初の夫・満雄とはわずか半年の結婚生活だった。「戦争さえなかったら……」。何度口にしたか分からないこの言葉を、弥栄子はまた心の中で叫

でいた――。

満雄と祝言を挙げたのは昭和十八年の十一月。数え歳二十四だった。日米開戦から二年二十五歳未満の女子が勤労動員されるようになったことや、東京の神宮外苑で出陣学徒の壮行会が行なわれたことなどから戦局の厳しさは弥栄子にも感じられたが、世間の勇ましい空気はそれを口に出すことを憚らせていた。



満雄は大阪市内の倉庫会社に勤める数え歳一十八の会社員だった。両親を早くに亡くし、伯父夫婦に育てられたと釣書にはあった。すでに召集状を受けていたため、見合いの席上、彼の親戚は遠慮がちに言った。「戦地へ行ったら当分は帰れんかもしれませんが、それでもよかったら……」。がつちりした体格、眼鏡をかけた真面目そうな顔付きに好感を抱いた弥栄子は、その日のうちに父母に承諾の意を伝えた。ほどなく仲人を通し、先方に返事が届けられた。

市内の借家で始めた新婚生活は、夢のようだった。満雄は見合いでの印象通り、几帳面な絵に描いたような性格だった。勤め先では経理を任せられ、その正確な仕事ぶりは上司や同僚から一目置かれていた。家ではよく本を読み、休日には職場の仲間とテニスを楽しむスポーツマンでもあった。夜ごと、その逞しい体との溶け合いに歓喜の合唱を繰返しながら、弥栄子は心の内で叫んでいた。「この幸せがいままで続きますように――」。

だが、覚悟していたとはいえず、願いは半年で破られた。

厳しい自然と向き合う

日本人の強さ、優しめ

パール・バックの短編『大津波』

「厳しい自然と向き合う」日本人本来の強さ、優しさが胸を打ち、私も含めて、少々の困難にめげがちな今の日本人に深い示唆を与えてくれます」(区四六十代男性)。東日本大震災からまもなく一年。発生直後、外国人記者を驚かせた現地住民の忍耐力や統率性、楽天性を、アメリカの女流作家、パール・バック(一八九二―一九七三)は短編小説『大津波』(THE BIG WAVE) (一九四七年)で既に表現していました。彼女は、長崎県の雲仙で一年ほど過ごした自身の体験がこの作品に繋がったことを「まえがき」で明らかにしています。

◆津波で家族を失った少年の話

——貧しい農家の息子キノと貧しい漁師の息子ジヤは、幼い頃から大人たちの仕事を手伝い

ながら、夏には海で泳ぎ、冬には学校で机を並べ、兄弟のように過ごしていた。が、ある夏の日、海底火山の噴火による大津波で浜辺の集落は跡形もなく流される。

家も家族も失い、一人ぼっちになったジヤをキノの両親が引き取る。来る日も来る日も悲しみに暮れるジヤ。そんな親友を気にかけるキノに、父親は言う。「ジヤが生きる限り、ジヤの父ちゃんたちもジヤの中で生き続けるんじや」。それでも「日本に生まれて損したと思わんか?」と問うキノに父親は答える。「危険のまっただ中で生きるってことはな、生きることがどんなにいいもんかわかることもんじや」「ちょっとべらい遅い死のつが、早い死のつが、大した違いはねえ。だがな、生きる限りはいさましく生きるって、命を大事にするって」「わしらは

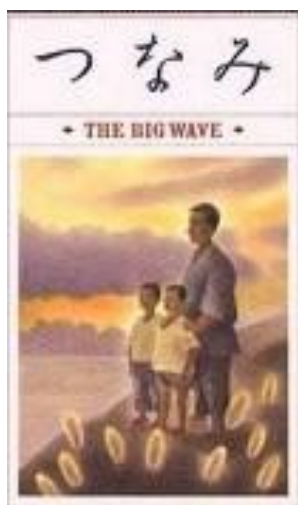
死を恐れたりはせん。それは、死があつて生があるこ分かつておるからじや」。

やがて村の裕福な長老がジヤを養子にしたいと申し出る。が、ジヤは貧しいキノの家に住み続ける。漁師たちが「ここはやっぱり最高の浜じや」「おやじのやちにも津波があつた。けど、おれたちも今また戻るんじや」と屈託なく浜に家を建て、生活を再建する姿にも接する。

そんな体験を通じて成長したジヤは、やがてキノの妹と結婚し、浜辺に家を構える。忍板を力一杯押し開けてジヤは言う。「おれ、海の方に家を開けたんじや。もし津波がまたやって来ても、ちゃんと備えができる。おれ、海に立ち向かつて生きる。恐がつたりなでせう」――。

◆日本では児童文学として出版

『大津波』は、日本では児童文学として二〇〇五年二月、径書房から『つなみ』と題して出版されました。写真。北面ジョーンズ和子ほか訳、黒井健絵、四六判一〇八頁上製、一五〇〇円十税。港区ではオリオン書房(八幡屋一六・一〇一、TEL・FAX五七二・二二一〇四)などで取り寄せてもらえます。



故郷の話をしよう

兵庫県・沼島出身
ぬしま

はまぐち ゆうすけ

浜口 雄介さん（磯路）〈中〉

「♪遠い日の夢の数々 僕は知りたい君の故郷 故郷の話をしよう」（昭和四十年北原謙『ふるさとの話をしよう』）。生粋の港っ子にとっても、最近越してきた人にとっても、懐かしい都会生活の中で、まだ見ぬ異郷に思いを馳せるのは、時空間旅行にも似た快感です。そこで幼小期・青年期の悲喜交々を織りまぜながら、皆で故郷の話をしよう。語り手は、淡路島の南に浮かぶ沼島から十五歳で上阪し、現在は八幡屋で「浜口サイクル」を、二先で「港モーター」を営む浜口雄介さん（六四）です。前号では島の概観や小学時代を話して頂きましたが、今月は中学時代に進みます。

× × × × × × × ×

◆中学校時代はどんな感じだったか？

家が貧しかったため、給食のない中学に上がると、昼休みには家に帰って芋ばかり食べていました。辛かったのは、月三十円の学級費が払えないことでした。食費は生まれつきでしたが、中学生ともなると恥ずかしさが募ります。そんな気持ちを察して、会計担当の級友は私に声をかけることなく通り過ぎてくれました。

また、二十代後半ぐらいの社会の女の先生は「あつておいで」と私に声をかけ、職員室に入ると「これで払いなさい」と一本の壘を手渡しました。ずっしりと重いその壘には小銭が何百円も入っていたのです。

当時はそんなことも、ただ恥ずかしく感じた



↑ 中学時代に弟妹たちと（後ろは母と豊田）

ものでしたが、その先生にしても級友にしても、今となれば本当に温かな思いやりを示してくれたと心から感謝しています。

◆貧しくも温かな島の人たちの人情が感じられます。クラブ活動は何を？

一年生の時に「人数が足りんから」と誘われて野球部に入りました。が、ユニフォームは先輩のお下がりを受けてもらったものの、家が貧しいためグローブが買えません。見かねた顧問の英語の先生が買ってくれた時は、それこそ飛び上るほど嬉しかったのを覚えています。

そのグローブで私はシヨートを守りました。



↑ 野球部顧問の先生に買ってもらったグローブは飛び上るほど嬉しかった

↑ 風情めある県下最古の沼島庭園⑤と世界で2カ所しか発見されていない箱型褶曲の岩⑥



しかしチームは弱くて、いつも負けていました。それでも淡路島で行なわれる県大会へ行く時は「沼島を出られる」というだけで、皆が躍り上がって喜んだものです。

ところがその県大会で一度、淡路島の八木中学校に辛くも勝つたことがありました。予想外の結果に慌てた顧問の先生は宿舎を探しまくり、何とか一軒のお寺を見つけてくれました。が、そんな苦労もどく吹く風で、私たちは泊れるといつことがまた嬉しい、その晩はしゃぎまわしゃぎまわったものでした。

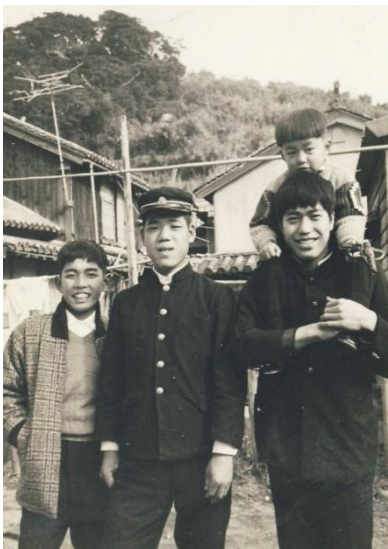
そんな楽しい思い出の一方で、チームの道具

として買いつけてもらったあのグローブを、愛着の余りとはいえず卒業後も長く使っていたことには、後ろめたい気持ちが今も残っています。

◆印象深い先生なごあらわれましたか？

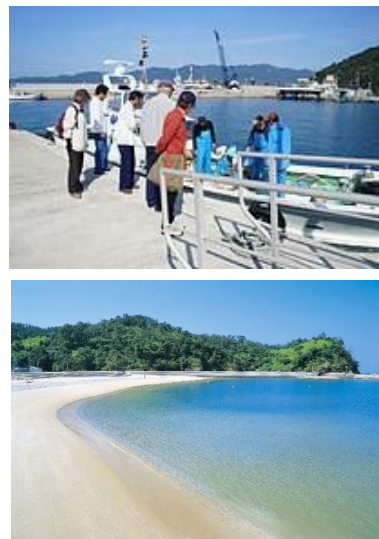
はい。たしか二年生が一年生の夏休みでした。友だちと四人ほどで、二十歳過ぎくらいの色の白い、とても美しい女の先生を訪ねたのです。沼島の学校の先生はみな淡路島から通っていましたが、その先生の家も淡路島の阿万という所にあり、私たちは朝、沼島漁港から淡路島の土生港へ渡り、そこから歩きました。

家に着くと、ラフな格好でくつろいでいた先生はびつくりしながら部屋へ招き入れてくれ、



→ 中学2年生の時、上級生⑦、下級生⑧と

↑ 島の主産業である漁業の拠点・沼島漁港⑨と離島支援で整備された海水浴場⑩



「よつ来てくれたねえ」と何度も何度も私たちの顔を眺め、港から歩いてきたと聞くと、また驚いていました。

親が材木商とかで、大きな家屋敷の庭には小川が流れ、鯉が泳いでいました。どんなことを話したのかまでは覚えていませんが、話がとても弾み、気が付くと夕方でした。先生は「港まで歩いたら大変だからバスに乗りなさい」とバス代をくれ、私たちはお礼を言って大きな家を後にしました。

ところがバス停ではいくら待ってもバスは来ません。時間が遅いので便が無くなっていたの

でしょう。仕方なくまた先生の家に戻ると、「それじゃ泊^{とま}っていきなさい」と言^いってくれました。そして鶏^{とり}小屋の卵で卵焼きを作り、晩飯のおかずに出してくれました。その美味^{おい}しかったこと・卵^{たまご}などにはぐんと出合ったことのない舌^{なは}とお腹に、そのまろやかな味はまるで舌けるかのように吸い込まれていきました。先生はまた、私たちの親が心配しているだろうと、電話器を置いていた沼島の商店に電話し、一人ひとりの家に連絡するよう頼んでくれました。

翌朝、先生に見送られ、バスと船を乗り継いで沼島に帰り着いたのですが、それからしばらくは、先生宅での夢のような時間が頭から離れ



↑中学生の頃、父の漁船で遊ぶ弟妹たち

↑中学3年の時、島の名所「上立神宮」の前で級友たちと(中央が私)



ず、何か切ないような気持ちも込み上げて落ちてきませんでした。

◆なるほど。女性への淡い憧^{あが}れをきんだ思春期特有の甘酸^{あま}っぱい思^{おも}い出ですね

その通りです。実は、この話には後日譚^{じいつたん}があり、つい三〜四年前「あの時のお礼をせび言いたい」と色々な手立てを講^{こう}じて遂に先生の所在を突き止め、同級生と二人で訪ねたのです。

先生はあのあと教職を辞^じし、三重県の医師に嫁^{よめ}ぎ、やはり大きな家に住んでおられました。しかし残念なことに、昔話に花は咲いたものの、あの日のことはなぜか「そんなことあったかな

↑中学卒業の日に級友と。社会へ出てからも頑張^{がんば}ると誓^{ちか}い合った(後列左端が私)



あ…」とよく覚えておられませんでした。少なからずがっかりしましたが、それでもその後は年賀状のやり取りを続けさせて頂いています。

◆それは良かったですね。中学卒業後はどうされましたか？

(つづ)

平和のため



語り継ごう

今月の語り部

もりがみ ゆきしげ

森上行茂さん（78歳 八幡屋 ㊤）



（前）あらすじ 昭和9年、西区に生まれた私は

裕福な幼少期を過ごしたが、日中戦争から日米戦争へと戦火が広がる中、厳しい学校生活と疎開を体験。長兄は南方で戦死。昭和20年3月13日深夜、遂に大阪にも大空襲が―

遂に来た！ 3月大阪大空襲

我が家焼失、死体山積み

夜中の十時半ごろ、警戒警報に続いて空襲警報が鳴り響いたと思うと、たちまち焼夷弾の雨が降り注ぎました。私たち家族（十八歳上の長兄を除く十人）は家の防空壕へ飛び込みました。壕は町内に一つは備えられてありましたが、我が家の前には家族用の大きな壕がありません。といっても広さは八畳ほど、天井は大人が立つと悶えるほどで、壁は土のまま、床には毛布を敷いただけの粗末な造りで、十人も入れば息が詰まるほどでした。

◆我が家に焼夷弾が直撃

その壕で私たちは蓋を開けたまま、空襲の様子を見上げていたのですが、焼夷弾を上十八発、下に十八発と二段に詰めた集束弾が夜空の中空でパッと花火のように弾ける様は、怖さを忘れて「何ときれいやー」と見惚れたものでした。が、ほどなく我が家にもその一つがまともに突き刺さり、一瞬にして燃え上がりました。

◆父の誘導で避難

私たちは「ここも危ない！」と判断し、壕から出ました。当時、町内会長や警防団長もしていた父は、家族に「あっちへ逃げろ」と命じる一方、近所の人たちにもてきぱきと指示を出していました。米軍の空襲はまず周囲を焼き払い、逃げ場を求めて人々が真ん中へ集まることを狙ってまた焼き尽くすという計画的なものでしたが、そんな中でも父の誘導は実に的確で、我々家族はもとより、町内の多くの人が無事逃げおおせたようでした。今でもこの時を振り返ると、私たち家族が一人も欠けずに生き延びられたのは父のお陰だと感謝すると共に、あの極限状況下で冷静・適確に地域住民の誘導責任を果たした父を誇りに思います。

◆逃げるのに精一杯

とはいえ、火の粉が飛び交う中での避難は熱くてたまらず、前もって水に浸して用意しておいたタオルを目や鼻や口に当てていなければ、とても歩けないほどでした。途中、病院の建物から「助けてー」と叫びながら裸で飛び出して来る産婆さん、自転車のタイヤが道路の熱で破

裂けて困り果てる男性などが目に入りましたが、自分たちが逃げるのに精一杯で、どうしようもありませんでした。結局その晩は福島区野田の叔父（父の弟）の家まで歩き、泊めてもらいましたが、その途中、安治川に架かる橋を川口から中央市場方面へ渡ろうとした時、線路の枕木が焼けて通れず、やむなく遠回りして別の橋を渡ったのを覚えています。

◆市場に死体の山

明くる朝、父に手を引かれて我が家のあった場所へ戻ってみると、家は焼け落ちて無残な姿



→大阪大空襲から一夜明け、防空壕から家財を運び出す人たち（昭和20年3月14日）

をさらい、近くの公設市場の中には犠牲者の死体が山積みになっていました。その状態は黒焦げ、半焦げ、生焼けと様々でしたが、それから一週間ほどはその光景が頭に焼き付いて寝られませんでした。また避難の途中で見た裸の産婆さんは、きつと熱くて熱くてたまらず着物を脱ぎ棄てたのだらうと想像したりしました。

結局、この空襲で、西区をはじめ港区、浪速

区などのお阪市中心部がごとごとく焼き払われ、「死者約四千人、全焼約十三万五千戸、罹災者約五十万人」（大阪府警警務局発表）という甚大な被害がもたらされました。いわゆる第一次大阪大空襲でした。

◆徳島の山村へ疎開

焼け出された私たちは、いつまでも叔父の家で世話になつてゐる訳にもいかず、父母の里である徳島県美馬郡へ疎開しました。そこは吉野川中流の電気も通わない山村でした。私が最初の疎開先・河内長野で見たB29の話をして、村の子供らは信用せず、学校の先生は「そんなこと言つたらいかん」と私を叱りました。が、八月に入ると下流の徳島市街も空襲に遭いまし

←戦争末期の昭和20年春、疎開先の徳島県で

の家族と親族全端の学生唄が私、右端が父



た。米軍はその時、ガソリンを先に撒き散らしたあとで焼夷弾を落とすという、さらに徹底したやり方で民家を焼き払ったと聞きました。

そして八月十五日、ラジオもない村に終戦の知らせが届いたのです。

「三三三」案内

●交通科学博物館企画展「**画**かれた鉄道く**錦**」
 絵・引札・双六・鳥瞰図の中の鉄道」 景色



や人物、物などを人に伝える「錦絵」「引札」「鳥瞰図」などから、鉄道や乗り物をモチーフに描かれた明治初期〜昭和中期の作品を一堂に紹介。錦絵では「東京名所 上野山下鉄道会社蒸気車発車之図」「写真上」など、引札では「諸十菓子掛物類製造卸非常勉強」「回下」など、双六では「手中国汽车行双六」など、鳥瞰図では絵師・吉田初三郎の作品など、絵葉書では同館所蔵一千五百点からかつてない数の資料を、それぞれ展示。三月十八日〜五月 十八日▽他に「鉄道

で使う ばかる 道員たち」(二月 二十四日まで 第八室で「関西大学鉄道研究会会写真展『よみがえるあの時代』(国鉄や京都市電など同じ場所の鉄道風景の今昔を比較。三月 二十四日まで) などの催しも▽十七時入館、月曜休館祝日なら開館し翌火曜休、火曜も祝日なら振替休なし。高校生以上四百円、四歳〜中学生五百円。JR井大町駅すぐ。 ☎六五八一・五七七ー。

●関西フィルハーモニー管弦楽団「第245回定期演奏会」 「巨大プロジェクト第3弾! 飯

守のブルックナー・ツィクルス第3夜」と題し、

同楽団桂冠名譽指揮者・飯守泰次郎(〇三年度

芸術選奨文部科学大臣賞、〇四年紫綬褒章、

一〇年旭日小授章、二年文化功勞者、一四

年九月より新国立劇場第八代オペラ芸術監督に

就任予定) Ⅱ写真上Ⅱが「美にフーグナー的」

と初演に意欲を燃やすブルックナーの交響曲第

3番などを贈る。ヨーロッパを中心に活躍し、

抜群のテクニクと美しい音色、強い集中力と

熱い情感で聴く者を魅了する女性ピアニスト・

小菅優(第十二回新日鉄音楽賞、アメリカ・ワ

シントン賞、第八回ホテルオークラ音楽賞、第



十七回出光音楽賞) Ⅱ回下(©Steffen Janicke) Ⅱによる絶品のモーツァルト

にも注目。演奏曲は①モーツァルト:ピアノ協奏

曲第24番 八短調 作品491②ブルックナ

ー:交響曲第3番 二短調(一八七三年初稿)。

三月十五日(金 十九時からザ・シンフォニー

ホール(JR福島駅から北へ歩約七分)で。十

八時四十分から指揮者プレトーク。S席五千円、

A席四千円、B席三千円、学生席千円(全席指

定・消費税込)。 ☎六五七七・三三八ー。

●海図書館 ①第七回みなとふれあい福祉のひ

ろば おたのしみ会とくべつばんⅡ三月二

日(土) 十一時半〜正午と十四時〜十四時半の

一回、じゅつたんコーナーで。一回目は「かた

りの会やざなみ」、二回目は「絵本の会など」

による絵本の読み聞かせ、パネルシアターなど。

幼児から小学生。申込不要、先着二十名②「三
図書展示」図書館に寄贈していただいた時代小
説文庫本」展＝三月三十一日まで開催中。時代
小説は近年、人気作家シリーズなどの予約も多
く、年配者を中心に人気③図書展示「あなたに
この本を」展＝三月一日～四月三十日。大阪
市立図書館が購入した新刊本から図書館員がす
すめを紹介④おたのしみ会＝幼児を対象に毎週
水曜十五時半～十六時にじゅたんコーナーで。
絵本の読み聞かせや紙芝居、パネルシアター、
手遊びなど。申込不要⑤あかちゃんのおたのし
み会＝赤ちゃんと保護者を対象に毎月第一金曜
十一時～十一時半にじゅたんコーナーで。赤
ちゃんが絵本に親しめるよう工夫。申込不要⑥
＝六五七六・三三四六。

●弁天町市民学習センター「春一番雅楽コン サート」

「日本最古の音楽」にして「世界最
古のオーケストラ」といわれる雅楽を、天理大
学雅楽部による多彩な演奏と分かりやすい解説
(歴史・楽器など)で楽しめる。三月十七日(日)
十四時からオークホール(オーク200六階)
で。小学生以上。先着二百名(要予約)。入場

料は高校生以上千五百円(前売千二百円)、小
中学生七百円。申込は来館・電話予約・インタ
ーネット予約のいずれかで。詳細は六五七七
・一四三〇同センターへ。

●弁天町市民学習センター・弁天シネマ倶楽部

『^{パリ}巴里のアメリカーナ』 「心に残る名作映画を
低料金で多くの市民に」と同センターが企画し
た上映会の二十七回目。パリを舞台にアメリカ
人画家とフランス人女性の恋を描く『写真は一
場面(右端が主演のシーン・ケリー)・浅田真央
選手のショートプログラム曲でも知られる「ア
イ・ガット・リズム」をはじめ、陽気で軽快な



ガーシュウィンの名曲がふれ出す、春にピッ
タリの傑作ミュージカル映画。クライマックス
には一人が名曲をバックに踊りまくる伝説的な
十八分間のダンスシーン。監督はヴィンセン
ト・ミネリ、出演は他にレスリー・キャロン、
ジールジュ・ゲタリなど。一九五二年アメリカ
作品。カラー、一二三分。三月十六日(土)十
時と十四時から講堂で。料金は一人一回八百円。
定員は各回先着百名。当日正午ごろからロビー
で無料ライブを予定。問い合わせは六五七七
・一四三〇同センターへ。

●弁天町市民学習センター「春のセンターまつ

り」 同センター登録の生涯学習グループが日
頃の活動の成果を作品展示やステージ発表や一
日体験で披露する恒例イベント。三月七日(木)
～十七日(日)の九時半～二十一時半(日曜日
は十七時まで、最終日は十八時まで)。ステー
ジ発表は十日(日)正午から。詳細は六五七七
・一四三〇同センターへ。

●港近隣センター・懐かしの名劇場『レベッ

カ』 「心に残る名作映画を低料金で多くの区
民に」と同センターが企画した月例上映会。一



美しい妻を失って傷心のマキシムは旅先で知り合ったキャロラインと結婚して帰郷する。家政婦のデヴアー夫人は先妻の居間を生前のまま保存していた。旦那様はあなたを必要としていません。自殺を迫る夫人にキャロラインは耐え切れなくなり。人間の執着心と冷酷さをもたらす底知れぬ恐怖を描き、一九四〇年アカデミー賞を受賞したアメリカ映画『写真は一場面』監督はアルフレッド・ヒッチコック、出演はローレンス・オリヴィエ、ジョーン・フォンテイン、ジョージ・サンダーズ他。二三二分モノクロ。三月八日(金) 十四時。協力金百円。定員は

先着五十人▽同センターは八幡屋一・四・二〇(入舟公園隣)、**八五七二・三〇五六**。

●**ガットネロ** 市岡在住のシャンソン歌手・松浦田美子さん**写真上**主幸の音楽喫茶。毎月

様々な企画。①HAMORIBEE(はもりべ)のうた★カフェ第十一回**二月十五日(金)十**

五時、十九時。若手テールデュオ(中川公志・小原有貴) **写真上**が日本の懐かしい歌を歌う(ピアノ・古谷優子)。会費各 千五百円(一

飲物付、定員十五人、要予約) ②クラシック・カフェ第三十回**二月二日(金) 十九時。**フル

ルトとピアノの共演を楽しむ」と題し、谷村和美(フルト)と吉野正江(ピアノ)がバツ

ハ、シューマン、ショパンなどを演奏。会費二

千円(一飲物付、定員十五人、要予約)▽ガットネロは天主寺区上本町六・一・三七、地下鉄

谷町九丁自駅①出口、**八六七六七・〇〇二**。



読者プレゼント

※いずれもハガキに当月号の感想とプレゼント名を書いて20日必着で港新聞へ。

●**交通科学博物館**(三三三三案内) 招待券を、ヘア2組に。

●**関西フィル「第245回定期演奏会」**(三三三三案内) 招待券を、ヘア1組に。

●**「くらくとんば」一座「横堀川の幽霊」**(演劇ガイド) 招待券を、ヘア2組に。

●**弁天シネマ倶楽部「巴里のアメリカ人」**(三三三三案内) 招待券を、ヘア2組に。

ひとくちPR

(1行11税込1000円)

●**何でも書きます、まごめします** 手紙・案内・報告・宣伝・司会等の文案。自分史・社史・団体史等の聞き書き。新聞・広報・書籍・会報等の取材・編集。**86571・4636** 港新聞・飯田編集事務所。

●**放課後・春夏冬休みは学童保育へ** 入所見募集。見学無料・体験OK。家族的雰囲気。区内に二カ所。**86575・0335** あひろい。